

# 我孫子市ミニサッカー・ルール

## 第1条 / ピッチ

### 大きさ

ピッチは、長方形とする。

タッチラインの長さは、ゴールラインの長さより長くなければならない。

長さ:最小 25m 最大 42m 幅:最小 15m 最大 25m

### ピッチのマーキング

ピッチは、ラインでマークする。エリアの境界を示すラインは、そのエリアの一部である。

長い方の2本の境界線をタッチライン、短い方の2本の境界線をゴールラインという。

すべてのラインの幅は、8cmを原則とする。

ピッチは、ハーフウエーラインで半分ずつに分けられる。

ハーフウエーラインの中央にセンターマークを印す。これを中心に半径3mの円を描く。

### ペナルティーエリア

ピッチの両端に、以下のようにペナルティーエリアを設ける。

それぞれのゴールポストの外側を中心として、半径3mの四分円をゴールポストの外側のゴールラインから、ゴールラインに直角に描いた仮想ラインの所まで描く。それぞれの四分円の先端をゴールポストの間のゴールラインに平行な3.16mのラインによって結ぶ。

### ペナルティーマーク

両ゴールポストの中央から6mのペナルティーエリアのライン上で、両ゴールポストから等距離のところにペナルティーマークを描く。

### コーナーアーク

それぞれのコーナーに半径25cmの四分円をピッチ内に描く。

### ゴール

ゴールは、それぞれのゴールラインの中央におく。

ゴールは、それぞれのコーナーから等距離に垂直に立てられた2本のポストとその頂点を結ぶ水平なクロスバーからとなる。

ポストの間隔は(内側間)は3mで、クロスバーの下端からピッチ面までの距離は2m。ゴールポストとクロスバーは同じ幅と厚さで、8cmを原則とする。

## 第2条 / ボール

フットサル公認ボール(空気圧が0.4~0.6気圧のもの)

## 第3条 / 競技者の数

### 競技者

試合は5人以下の競技者からなる2つのチームによって行われる。

チームの競技者のうちの1人はゴールキーパーである。

### 交代の手続き

交代要員は、最大2人までを原則とするが、競技会規定で定める。

試合中に行われる交代の回数は制限されない。

交代で退いた競技者は交代要員となって他の競技者と交代してピッチに戻る事が出来る。

交代は、審判の指示によりアウトオブプレー中に行われることを原則とするが、競技会規定で定める。

ゴールキーパーは、他のどの競技者とも入れ替わる事が出来る。

\* 最少人数 \*

試合開始時に、両チームとも最小 4 人の競技者がいなければならない。  
退場によっていずれかのチームの競技者の数が 4 人未満になった場合試合を放棄しなければならない。

## 第 4 条 / 競技者の用具

### 安全

競技者は、自分自身あるいは他の競技者に危険となるような用具やその他のものを身につけてはならない。

### 基本的な用具

競技者が身につけなければならない基本的な用具はジャージまたはシャツ、ショーツ(サマーアンダーショーツは主な色がショーツと同色とする)、ソックス、すね当て、靴(靴底がゴムまたは類似の材質のトレーニングシューズ)

### 背番号

すべてのシャツには胸番号、背番号がつけられる。

### すね当て

すね当ては、適切な材質(ゴム・プラスチック)で作られ、ソックスによって完全に覆われる。

### ゴールキーパー

ゴールキーパーは、長いトラウザーズを着用することが出来る。それぞれのゴールキーパーは他の競技者および審判と容易に区別の色をつくる。

本条の違反に対して主審は、違反をした競技者にピッチから離れて用具を正す様に、または身につけていない用具を身につける様指示する。

\* 用具に関する条項を競技会規定に別途設ける事が出来る \*

## 第 5 条 / 主審

### 主審の権限

それぞれの試合は、主審によってコントロールされる。

主審がピッチの設置された場所に入ったときからその場所を離れるまで、任命された試合に関して競技規則を施行する一切の権限を持つ。

### 主審の職権と任務

協議規則を施行する。

違反されたチームがアドバンテージによって利益を受けそうな時は、プレーを続けさせる。しかし、その時に予期したアドバンテージが実現しなかった場合は、そのもととなった違反を罰する。

タイムキーパーがいない場合、その任務を行う。

競技規則のあらゆる違反に対して、あるいは外部からの何らかの妨害があった場合、試合を停止し、中断し、あるいは打ち切る。

警告や退場となる違反を行った競技者に対し懲戒措置をとる。

認められていない者がピッチ内に入らない様にする。

競技者が重傷を負ったと審判が判断した場合は、試合を停止し負傷者をピッチから運び出す様にする。

競技者の負傷が軽いと審判が判断した場合は、ボールがアウトオブプレーになるまで競技を続けさせる。

使用するすべてのボールが第 2 条の要件に適合している事を確かめる。

### 主審の決定

プレーに関連する事実についての主審の決定は最終である。

## 第2 審判

場合により第2 審判をおく。  
任務については、競技会規定等で定める。

## 第6 条 / 試合時間

### プレーの時間

試合は、前・後半の8分ずつ行われる。  
計時は、主審または競技会規定等で定めるタイムキーパーが行う。

### ハーフタイムのインターバル

2分とする。

## 第7 条 / プレーの開始および再開

### 試合前

エンドの選択は、コイントスによって決める。  
トスに勝ったチームが試合の前半に攻めるゴールを決める。  
他方のチームが、試合開始のキックオフを行う。  
トスに勝ったチームは、試合の後半開始のキックオフを行う。  
試合の後半には両チームはエンドをかわり、前半と反対のゴールを攻める。

### キックオフ

キックオフはプレーを開始する、または再開する方法の一つである。  
試合開始時、得点の後、試合の後半開始時、延長戦が行われるときの前後半の開始時

**\*キックオフから直接得点する事が出来る\* 2009年度ガーデン大会では禁止**

### 進め方

すべての競技者は、ピッチの味方半分内にいる。  
キックオフをするチームの相手チームは、ボールがインプレーになるまで3m以上ボールから離れる。  
ボールはセンターマーク上に静止している。  
主審が合図をする。  
ボールがけられて前方に移動したとき、ボールがインプレーになる。  
キッカーは、他の競技者がボールに触れるまではボールに再び触れない。  
一方のチームが得点をあげた後は、他方のチームがキックオフを行う。

### 違反と罰則

他の競技者がボールに触れる前にキッカーがボールに再び触れた場合は、違反の起きた地点から行う間接フリーキックを相手チームに与える。  
ただし、違反が相手チームのペナルティーエリア内で犯された場合、その地点に最も近いペナルティーエリアライン上からの間接フリーキックを行う。  
キックオフの進め方のその他の違反に対してキックオフを再び行う。

### ドロップボール

ドロップボールは、ボールがインプレーの時にボールがタッチラインやゴールラインを超える前に、競技規則に他に規定されていない理由によって必要が生じた一時停止の後に試合を再開する方法である。

### 進め方

主審はプレーを停止したとき、ボールのあった地点でボールをドロップする。

ただし、その地点がペナルティーエリア内の場合、試合が停止されたときにボールのあった地点最も近いペナルティーエリアのライン上で主審がボールをドロップする。  
ボールがピッチ面に触れたとき、プレーは再開する。

#### 違反と罰則

次の場合、ボールを再びドロップする。  
ボールがピッチに触れる前に競技者がボールに触れる。  
ボールがピッチ面に触れた後で、競技者に触れずピッチの外に出る。

### 第 8 条 / ボールのインプレーおよびアウトオブプレー

#### ボールのアウトオブプレー

次の時にアウトオブプレーとなる。  
地上・空中を問わず、ボールがゴールラインまたはタッチラインを完全に超えた場合。主審がプレーを停止した場合。

#### ボールのインプレー

これ以外のすべての時は、次の場合も含めてボールはインプレーである。  
ボールがゴールポスト、クロスバーからはね返ってピッチ内にある。ボールがピッチ内にいる審判のいずれかに当たる。

### 第 9 条 得点の方法

#### 得点

競技規則に別に規定されている場合を除いて、両ゴールポストの間とクロスバー下でボールの全体がゴールラインを超えたとき得点なる。  
ただし、ゴールキーパーを含む攻撃側の競技者が手や腕を用いてボールを投げ、運びあるいは意図的に押し進めた場合を除く。

#### 勝利チーム

試合中に得点の多かったチームを勝ちとする。  
両チームが同点か共に無得点の場合は、試合は引き分けとする。

#### 競技会規定

引き分けに終わった試合のために、試合の勝者を決定するための延長戦あるいはその他の手続きに関する条項を競技会規定に設ける事が出来る。

### 第 10 条 / 反則と不正行為

#### 直接フリーキック

競技者が次の 6 項目の違反を不用意に、無謀にあるいは過剰な力で犯したと主審が判断した場合、直接フリーキックを相手チームに与える。

1. 相手をける、またはけろうとする。
2. 相手をつまづかせる、またはつまづかせようとする。
3. 相手に飛びかかる。
4. 肩によるものもふくめて、相手をチャージする。
5. 相手を打つ、または打とうとする。
6. 相手を押す。

次の項目の違反を犯した時も、直接フリーキックを相手チームに与える。

1. 相手を抑える。
2. 相手につばを吐きかける。
3. 相手がボールをプレーしている、あるいはプレーしようとしている時にボールをプレーしようとして滑る(スライディングタックル)。

\*ただし、不用意に、無謀にあるいは過剰な力で行わない限り、自分のペナルティーエリア内のゴールキーパーを除く。

4. ボールを手で意図的に扱う。ただし、自分のペナルティーエリア内のゴールキーパーを除く。

\*直接フリーキックは、上記の違反の起きた地点から行う。

#### ペナルティーキック

競技者が自分のペナルティーエリア内で上記の項目の違反をボールがインプレー中に犯した場合、ボールの位置に関係なく、ペナルティーキックを与える。

#### 間接フリーキック

ゴールキーパーが次の項目の違反を犯した場合、間接フリーキックを相手チームに与える。

1. 味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされたボールを手で触れるか手でコントロールする。
2. 味方競技者がキックインしたボールをゴールキーパーが直接手で触れるか手でコントロールする。
3. 4秒を超えてボールを保持する。

競技者が次の項目の違反を犯したと主審が判断した場合も、違反の起きた地点から行う間接フリーキックを相手チームに与える。

1. 危険な方法でプレーする。
2. ボールをプレーしていない時、意図的に相手の前進を妨げる。
3. ゴールキーパーがボールを手から離すのを妨げる。
4. 競技者に警告しあるいは退場させるためにプレーを停止する違反で、10条のこれまでに規定されていないその他の違反を犯す。

\*間接フリーキックは、違反の起きた地点から行う。

\*ただし、その地点がペナルティーエリア内の場合、違反の起きた地点に最も近いペナルティーエリアのライン上から間接フリーキックを行う。

#### 警告となる違反

競技者が次の項目の違反を犯した場合、警告を与えイエローカードを示す。

1. 反スポーツ的行為を犯す。
2. 言葉または行動によって異議を示す。
3. 繰り返し競技規則に違反する。
4. プレーの再開を遅らせる。
5. コーナーキック、キックイン、フリーキックまたはゴールクリアランスでプレーを再開するとき規定の距離を守らない。
6. 主審の承認を得ずにピッチに入る、または復帰するあるいは交代の続きに違反する。
7. 主審の承認を得ずに意図的にピッチから離れる。

\*これらの違反があった場合、相手チームに違反の起きた地点から行う間接フリーキックを与える。競技規則のより重大な違反を犯していなければ、警告も与える。ただし、違反があった地点がペナルティーエリア内の場合、その地点に最も近いペナルティーエリアライン上から間接フリーキックを行う。

#### 退場となる違反

競技者が次の項目の違反を犯した場合、退場を命じレッドカードを示す。

1. 著しく不正なプレーを犯す。
2. 乱暴な行為を犯す。
3. 相手競技者あるいはその他の者につばを吐きかける。
4. 意図的に手でボールを扱って、相手チームの得点あるいは決定的な得点の機会を阻止する(自分のペナルティーエリアにいるゴールキーパーが行ったものに適用しない)

5. フリーキックあるいはペナルティーキックとなる違反で、ゴールに向かっている相手競技者の決定的な得点の機会を阻止する。
  6. 攻撃的な、侮辱的なあるいは口汚い発言をする。
  7. 同じ試合の中で 2 つ目の警告を受ける。
- \* 競技者が他の違反を犯すことなく項目 6 または 7 の違反を犯し、退場を命じるためにプレーを停止した場合、違反の起きた地点から行う間接フリーキックを相手チームに与え、試合を再開する。
  - \* ただしその地点がペナルティーエリア内の場合その地点に最も近いペナルティーエリアライン上からの間接フリーキックを行う。
  - \* 退場を命じられた競技者は、以後その試合に復帰することは出来ないし交代ベンチに着席することも出来ない

## 第 11 条 / フリーキック

### フリーキックの種類

フリーキックには直接と間接がある。いずれの場合もキックが行われるときボールは静止しており、キッカーは他の競技者がボールに触れるまで再びボールに触れてはならない。

### 直接フリーキック

直接フリーキックが行われボールが相手ゴールに直接入った場合得点となる。

### 間接フリーキック

ボールがゴールに入る前に他の競技者に触れた場合のみ、得点となる。

### フリーキックの位置

相手競技者は、ボールがインプレーとなるまで 5m 以上ボールから離れる。

相手競技者は、フリーキックに壁を作る事が出来る。

ボールが触れられるかプレーされたのち、ボールがインプレーとなる。

### 違反と罰則

フリーキックを行う時相手競技者が規定の距離よりボールの近くにいる場合キックを再び行う。

ボールがインプレーとなって他の競技者に触れる前にキッカーが再びボールに触れた場合、違反の起きた地点から行う間接フリーキックを相手チームに与える。ただし、その地点がペナルティーエリア内の場合、その地点に最も近いペナルティーエリアライン上から間接フリーキックを行う

### シグナル

#### 直接フリーキック

主審はキックが行われる方向に向けて一方の腕を水平に伸ばす。

#### 間接フリーキック

主審は、一方の腕を頭上に上げて、間接フリーキックであることを示す。

主審は、キックが行われ、そのボールが他の競技者に触れるかまたはアウトオブプレーになるまでその腕を上げ続ける。

## 第 12 条 / ペナルティーキック

### ペナルティーキック

直接フリーキックとなる違反を自分のペナルティーエリアの中で、ボールがインプレー中に犯したとき、相手チームにペナルティーキックを与える。

ペナルティーキックから直接得点する事が出来る。

前後半の終了時および延長戦の前後半の終了時に行うペナルティーキックのために時間を追加する。

#### ボールと競技者の位置

ボール:ペナルティーマーク上に置く。

ペナルティーキックを行う競技者:特定する

守備側のゴールキーパー:ボールがけられるまでキッカーに面して両ゴールポストの間のゴールライン上にいる。

キッカー以外の競技者:ピッチの中、ペナルティーエリアの外、ペナルティーマークの後方、ペナルティーマークから 5m 以上離れる

#### 進め方

ペナルティーキックを行う競技者は、ボールを前方にける。

ボールが他の競技者に触れるまで、キッカーは再びボールをプレーしない。

ボールがけられて前方へ移動したとき、ボールがインプレーとなる。

\* ペナルティーキックを通常的时间内に行う、あるいは前後半の時間を延長して行う、あるいは再び行うとき、ボールが両ゴールポストの間とクロスバーの下を通過する前に、ボールが両ゴールポスト・クロスバー・ゴールキーパーのいずれか、あるいはそれらに触れた場合得点が与えられる。

#### 違反と罰則

< 守備側競技者が本条に違反する >

得点にならなかった場合は、キックを再び行う。

得点になった場合は、キックを再び行わない。

< キックを行う競技者の味方競技者が本条に違反する >

得点になった場合は、キックを再び行う。

得点にならなかった場合は、キックを再び行わない。

< キックを行う競技者がボールがインプレーになったのち競技規則に違反する >

違反の起きた地点から行う間接フリーキックを相手チームに与える。ただし、その地点がペナルティーエリア内の場合、その地点に最も近いペナルティーエリアライン上から間接フリーキックを行う。

## 第 13 条 / キックイン

### キックイン

キックインはプレーを再開する方法のひとつである。

キックインから直接得点することは出来ない。

### キックインの与え方

地上・空中を問わず、ボールの全体がタッチラインを超えたとき

ボールがタッチラインを超えた地点から

最後にボールに触れた競技者の相手競技者に

### ボールと競技者の位置

ボール:タッチラインに静止している

### キックインを行う競技者

ボールをキックするとき、いずれかの足の一部をタッチライン上、またはタッチラインの外のピッチ面につける。

### 守備側のチームの競技者

キックインを行う地点から 5m 以上離れる。

### 進め方

キックインを行う競技者は、ボールを保持してから速やかにキックインを行う。  
キックインを行う競技者は、他の競技者がボールに触れるまで再びプレーしてはならない。  
ボールがけられるか触れられたのち、直ちにボールがインプレーとなる。

#### 違反と罰則

< 間接フリーキックを相手チームに与える >

他の競技者がボールに触れる前に、キックインを行った競技者がボールを再びプレーしたとき、違反の起きた地点から間接フリーキックを行う。ただし、その地点がペナルティーエリア内の場合、違反が起きた地点に最も近いペナルティーエリアラインから間接フリーキックを行う。

< 相手チームの競技者が再びキックインを行う >

キックインを正しく行わない。

ボールがタッチラインを超えた地点以外の場所からキックインを行う。

キックインを行う競技者が、ボールを保持してから 4 秒以内にキックインを行わない。

その他、本条に違反する。

### 第 14 条 / ゴールクリアランス

#### ゴールクリアランス

ゴールクリアランスはプレーを再開する方法のひとつである。

ゴールクリアランスから直接得点することはできない。

#### ゴールクリアランスの与え方

攻撃側のチームの競技者が最後にボールに触れて、地上・要中を問わず、ボールの全体がゴールラインを越え、第 9 条による得点とならなかった場合

#### 進め方

守備側チームのゴールキーパーがペナルティーエリア内の任意の地点からボールを投げる。

ボールがインプレーになるまで、相手競技者はペナルティーエリアの外にいる。

ボールが他の競技者に触れるまで、ゴールキーパーはボールを再びプレーしない。

ボールがペナルティーエリアの外に直接投げたとき、ボールがインプレーとなる。

#### 違反と罰則

< ボールがペナルティーエリアの外に直接投げられなかった場合 >

ゴールクリアランスを再び行う。

< インプレーとなった後、他の競技者に触れる前にキーパーが触れた場合 >

違反の起きた地点から行う間接フリーキックを相手チームに与える。ただし、その地点がペナルティーエリア内の場合その地点に最も近いペナルティーエリアライン上から間接フリーキックを行う。

< キーパー保持から 4 秒以内にゴールクリアランスを行わなかった場合 >

間接フリーキックを相手チームに与え、違反が起きた地点に最も近いペナルティーエリアラインからキックを行う。

### 第 15 条 / コーナーキック

#### コーナーキック

コーナーキックはプレーを再開する方法のひとつである。

相手チームのゴールに限り、コーナーキックから直接得点する事が出来る。

#### コーナーキックの与え方

守備側のチームの競技者が最後にボールに触れて、地上・空中を問わず、ボールの全体がゴールラインを越え、第 9 条による得点とならなかった場合

#### 進め方

ボールが出た地点に近い方のコーナーアークの中にボールを正しく置く。



ボールがインプレーになるまで、相手競技者はボールから 5m 以上離れる。  
攻撃側の競技者がボールをける。  
ボールがけられるか触れられたとき、ボールがインプレーとなる。  
他の競技者がボールに触れる前に、キッカーは再びボールをプレーしない。

#### 違反と罰則

< 相手チームによって間接フリーキックが行われる場合 >

他の競技者に触れる前に、コーナーキックを行った競技者がボールを再びプレーした場合、違反の起きた地点から間接フリーキックを行う。コーナーキックを行う競技者が、ボールを保持してから 4 秒以内にコーナーキックを行わない場合、間接フリーキックはコーナーアークから行う。

< その他の違反の場合 >

コーナーキックを再び行う。

### 第 16 条 / ペナルティーマークからのキック

#### ペナルティーマークからのキック

試合が引き分けに終わった後、勝者となるチームを決める事が競技会規定によって要求されている時、勝者を決定する方法。

#### 進め方

主審がキックを行うゴールを選ぶ。

主審がコインをトスし、トスに勝った主将のチームが最初のキックを行う。

主審は、行われたキックの記録をつける。

下記の条件に従って、原則として両チーム 3 本ずつのキックを行う。

- 1.キックは交互に、試合終了時にピッチにいた競技者で行う。
- 2.一方のチームが相手チームより参加資格のある競技者が多い人数で試合が終了したとき、競技者のより多いチームは相手チームの人数と等しくなる様、人数を減らす。
- 3.両チームが 3 本のキックを行う以前に一方のチームが 3 本のキックを蹴り終えても他方のチームが既により多くの得点をあげている場合は、以後のキックは行わない。
- 4.3 本ずつのキックの後に両チームの得点と同じ場合は、同数のキックと一方のチームが他方より多くの得点をあげるまで、それまでと同じ順序でキックを続ける。
- 5.3 本日以降は最初の 3 本のキックを行っていない競技者が行う。全員がキックを行った後は、始めにキックを行った競技者がペナルティーキックを続ける。
- 6.参加資格のある競技者は、ゴールキーパーと入れ替わる事が出来る。
- 7.ペナルティーマークからのキック進行中、参加資格のある競技者と審判団のみがピッチの中にいる事が出来る。
- 8.キックを行う競技者とゴールキーパー 2 人を除くすべての競技者は、キックの行われている反対側のハーフの中にいる。
- 9.キッカー側のゴールキーパーは、プレーの進行を妨げることなくピッチの中になければならない。

以上